

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第17号(20101008)

発行 竹田幸男



10月例会の開催

10月例会では映像協会との共催の平野郷撮影会の概要の検討、忘年会の日時、場所、時間等の決定等を行い、次の作品発表会を11年11月を目標とすることを決定しました。

例会の窓

平成22年10月例会

日時 平成22年10月8日

13:30～16:00

場所 寝屋川市民活動センター(市民会館4F)
こども室

出席者 天野 新井 石田 小笠原 梶本 竹下 竹田 谷 田淵(9名)

欠席者 竹嶋 田口 (50音順 敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項。

(1) 平野郷撮影会の件。

・第4日曜日は映像協会の例会の日なのでそれ以外の日を基本として実施。

- ・映像資料館、刀博物館を主題とする案、その他いくつかの博物館をテーマとする案
などを今後の検討課題とする。
- ・実施時期は来年年明けを考える。春先が良いとの意見がある。
- ・昼食は雰囲気、料金などを考えて「がんこ寿司」に決定した。バスの送迎もある。
- ・映像協会の上辻さんと、新しく撮影した映像を元に打ち合わせする。(小笠原)

(2) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件。

- ・今回は竹嶋さん担当、本日欠席なのでご本人に連絡を取り了解を得る。(担当小笠原)

(3) 寝屋川市民文化祭出品の件。

- ・新井、竹下、谷さんの3作品を出品済み。
- ・映写会は11月3日、12時～17時、寝屋川市総合センター4F(視聴覚室)多数のご観覧を。

(4) 寝屋川市映像協会 第7回映像フェスティバルの件。

- ・当同好会からも多数参加。素晴らしい作品だったとの声しきり。
- ・余りの素晴らしさに、作品作りに自信が持てなくなった。(小笠原)

(5) 忘年会の件。

- ・12月10日(金)16時～ 於寝屋川がんこ寿司(昼メニュー)。
- ・月例会を13時～15時30分とし終了後、場所を移して実施する。

(6) 平成23年、作品発表会の件。

- ・11月26日(案)、少し早いですが終了後忘年会を実施することも検討課題。

(7) 松愛会寝屋川支部会報への当同好会紹介記事の件。

- ・原案を田淵さん作成済み。竹田さんが最終記事に仕上げる。

2. 作品発表

- ・「ベネチアの日」、竹田さん 9分58秒。
あさひ丘婦人会主催「女性画家の絵画と映像でめぐるヨーロッパ」のための作品。提督宮殿からサンマルコ広場、ゴンドラでカンツォーネを聞き、ベネチアの街を巡る。

- ・先月号の「随想」の中のブロック現象（作品ではない）竹下さん。
ブロックの入った不良テープと修復された映像の紹介。
不良と修復の過程は会報第16号「随想」を参照のこと。

3. 会員の当面する問題点の質疑応答

- ・パソコンのフリーズに対する対応として、ディスクのプロパティのエラーチェックを実施するのが有効。ハードディスクをチェックしてエラーを自動的に修復する機能の活用。
- ・撮影不良を未然に防ぐために、ヘッドクリーナーを使用することを推奨。
- ・アナログの音楽レコードをデジタルに変換して取り込む方法について。

4. 次回例会

- ・11月12日（金） 13：30～ 於：市民活動センター こども室。
- ・カメラ担当：天野さん。



映像同好会に入会して

竹嶋 定

この会に入会して5年になります。石田さんのお宅に田淵さんと私が集合し、先生役の新井さんを迎えて、ビデオ編集の特訓を受けたのが昨日のことのようです。

DVCカメラからの映像をパソコンに取り込み、カノープスの編集ソフト「超編」を使って、編集の実際を学びました。新井さんの手に掛かると、たちまち映像にタイトルが入り、映像と映像のつながりやカット、前後の入れ替えなどがスイスイと進んで行きます。タイトルやテロップの文字の大きさや色、音声のレベル調整も自由自在、目を見張るばかりでした。その後、私自身は中々編集の腕も上がらず、ビデオ作品作りもままならず、発表会は、2作品のみの参加で現在に至っています。私の後に紅一点の谷さんが入会されましたが、撮影は勿論、編集や作品作りの技術の成長の早さに日々驚いています。

今では、完璧に私は置いてきぼりになっています。

同好会での楽しみは、撮影旅行・懇親会・忘年会、そして毎月開催の例会での皆さんの新作品の観賞と情報の交換会です。例会では毎回、四季折々の綺麗な景色に心を癒され、日本や外国の自然の景観や文化・歴史に触れて社会勉強をしたり観光気分になり、あっという間の時間を過ごしています。これが楽しいので良しとしましょう。

私のビデオカメラ歴

単に古いだけです。VHSビデオが産まれて暫くしての昭和55年に始まります。世間から見ればかなり早い方です。子供の成長記録、幼稚園・小学校の運動会、家族旅行などの撮影、子供から孫へと20年以上続くピアノ発表会、子供や甥・姪の結婚式、会社の職場レクレーションや旅行・運動会・ソフトボール大会、定年退職される諸先輩の送別会、後輩の結婚式などなど、かなりのビデオテープと時間を費やして撮影して来ています。

ビデオカメラもVHS(昭和55年~)/一時VHS-C/8mm(昭和63年~)/DVCR(平成10年~)と変遷して来て、大量のテープを撮り溜めています。

時に応じてダビングし、関係の方々にビデオテープを差し上げて喜んで頂いたかなあと自分勝手に納得していますが・・・。

当初は色画用紙(主に青色)に白ペンキで文字を書き、それを撮影してタイトルにしていました。その後、8mmビデオカメラでは、ある程度編集可能なタイトル機能が内蔵されていて予め準備しておく、撮影中の画像に出し入れ出来て同時録画が出来るので、これは大変重宝しました。そして編集といえは2台のビデオを使って不要な部分をただカットするだけというもの。画像は劣化するし、音声はそのままレベル調整やアフレコ・BGMなどは勿論無し。

DVDレコーダー(平成12年~)を手に入れてからはハードディスクに取り込んで、不要部分を秒単位でカットするだけですが、編集は随分楽になりました。

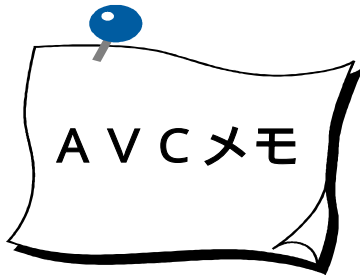
そんなビデオ映像ですが特に家族は大喜びで、何度も何度もビデオを見てワイワイと騒いでくれるのが、やり甲斐・撮り甲斐というものです。これは今も続いています。

これからどうしたらいいかな

同好会の皆さんのお蔭でパソコンを使ったビデオ編集は曲がりなりにも出来るようになりました。身内を喜ばすビデオなら簡単です。これからは他人の方々に見て頂いて楽しんで頂けるビデオ作りにも手を伸ばしたい、と思っておりますが、これが中々難しい。

それからもう一つは、来年7月、テレビ放送は否応無くデジタル化・ハイビジョン化されます。今、手持ちのビデオカメラの映像(4:3)は、やがて取り残される運命。ハイビジョンのビデオカメラは廉価になって来ています。あと編集機材(特にパソコン)が高価。更に技術力も上げないと対応出来なくなります。私には大きな課題です。

以上



ちゃんと見てもらえているか？

竹田幸男

アマチュアの映像作品は長い間、映像画面の横対縦の比率は4対3でした。それは8ミリフィルムの時代から連綿と続くものでした。もちろん、テレビも、テレビ放送も4対3でした。これで世の中平和に打ち過ぎていきました。

あるとき16対9のテレビが出てきました。ハイビジョンではなく、標準画質のテレビです。映画などはずっと前から2対1ぐらいの横長画面になっていましたから、映画に近づきたい、という思惑があったのでしょうか。ところがテレビ局の方が追いつかなくて多くの番組が4対3で作られていたので、画面の両側に黒い帯が出来てしまいました。これを放置すると、常時絵が出る中の方だけ「焼き付き」が起こって中の方と横の方とが色が変わると言うことが叫ばれ、4対3の映像を横に引っ張り伸ばして映写することが行われました。横方向に引き延ばすので、人間であれば本物より太って見えます。顔もふくらんで見えます。これではおかしいと言うことで、真ん中の方はあまり横に伸ばさず、端の方へ行くほど横に引き延ばすことにより目立たなくする、と言う技術が競われました。その結果、ビデオカメラにも「ワイドモード」が追加され、このモードでは映像信号に+5ボルトの直流電圧が重畳され、この信号が重畳されたテープが再生されるとテレビの方で自動的に4対3から16対9に切り替える、というシステムができあがりました。テレビの方もこの直流電圧の有無に関係なく、リモコンで、またはメニュー設定でノーマルとワイドの切り替えが出来るようになっていました。従ってこの知識ある人、または映像制作者からお願いを受けた人は、手動でこの設定を行い、映像制作者の意図した映像を再生できたのです。

ところが最近のハイビジョンテレビはこの手動切り替えが出来ません。どのような映像も16対9で強制的に映写しようとしします。当然4対3で制作した映像だと横長になってしまい、映像制作者の意図は守られないことになります。

こういうテレビで映写する、と言うことが前提であれば、4対3で制作した映像は両側に黒い帯を付けておけば正しく映写されます。ところが今のところ4対3のテレビも残っています。こういう4対3のテレビで再生したら今度は横方向が圧縮され、縦長の映像になってしまい、太った人もやせて見えます。こういう古いテレビがどれほどの割合で残っているか、により、結果が変わってきます。4対3のテレビ(モニター)が絶滅する、その日まで、我々はこの問題に悩まされることでしょう。つまり人に差し上げた映像は縦横比がまとも

に表現されないまま、変な映りになっている、という批判を受け続けなければならないこととなります。すなわち「ちゃんと見てもらえていない」事態が続くのです。

この問題の解決のため一つの実験をしてみました。EDIUS Neo2 BoosterではHD映像とSD映像の混合編集が可能、と謳っているのでプロジェクト作成時に「16:9」を選んで16対9と4対3の映像を混合して「ピンウインドウ」に取り込み、編集してDVDに焼いてみました。結果は4対3のテレビでは4対3の映像は正しく映写でき、16対9の映像は左右がカットされて映写され、また16対9のテレビでは4対3、16対9の映像は、それぞれ正しく映写できました。4対3のテレビで16対9の映像をフルに映写するには上下をカットした（レターボックスという）映像をあらかじめ作成したうえ、これを横幅が4対3の映像範囲になるように挿入すれば可能になります。但しこの場合縦方向の解像度が低下するので16対9の映像の映りは悪くなります。詳細はまた例会で研究しましょう。